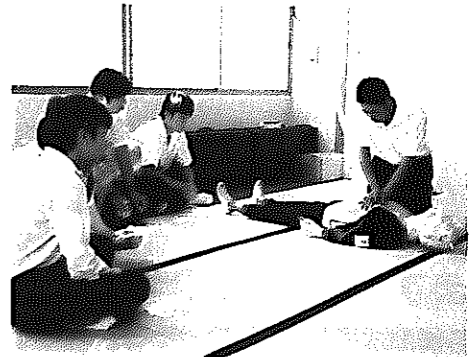


身近な情報をお寄せください
(白根市役所企画財政課広報広聴係
☎373-2111)

恥ずかしがらず、勇気を出して

白根地区消防本部応急手当講習会

八月十七日、白根地区消防本部で高校生を対象にした応急手当講習会を開催しました。同本部では毎月一般の人を対象に講習会を開催していますが、高校生対象の講習会は今回が初めて。市内外の高校生四十六人が参加しました。講習会では、応急手当の講義に続いて、人形を使った実習が行われました。照れくささで、なかなか声を出せない高校生に「恥ずかしがらずに勇気を出して」と署員が懸命に指導します。何度か繰り返すうちに手順も覚え、最終テストでは全員が無事修了証を手にすることができました。



賢い消費者を目指して

新潟県消費者協会白根支部設立

悪徳商法や不正商品などに絡み、トラブルが絶えない昨今、「賢い消費者になってトラブルを未然に防ごう」という目的で、新潟県消費者協会白根支部が設立されました。同会は市内の主婦など会員三十七人でスタート。引き続き会員を募集しながら、今年度は、消費生活講座や生産現地視察、商品テスト、リサイクル講習会などの事業を行う予定です。設立総会は八月三十一日、青年教育センターで開かれ、この日の



地域の子孫繁栄を願って

北田中諏訪社に氏神を奉納

国道8号上塩俵交差点を過ぎ、白根市街へ向かっていくと、左側田んぼの真ん中に数本の松が見えます。そこが北田中諏訪社です。このほど北田中氏子二十一人がお金を出し合い、新しい氏神と鳥居を奉納。わきには縁結び、子宝を願って金精様と女神様も建てられました。「北田中にとっては地域の名所でもある。村おこしの一環として奉納した」と地域の一人。「少子化の今、子宝をたくさん授けてほしいですね」と語っていました。



歌で深める地域の交流

にいだ納涼ふるさと歌謡祭

八月二十三日、第二回にいだ納涼ふるさと歌謡祭が新飯田地域生活センター前広場で行われました。昨年からはじめられたこのお祭りは、生活センターを利用して新飯田地区全体の交流を深めようという行われているもの。広場にはちょうちゃんが飾られ、夜店も出るなどお祭り気分も盛り上がり、子供からお年寄りまで約千人が集まりました。会場内のステージで各町内からの出場者三十人が自慢のものを披露し、観衆から盛んに拍手が送られていました。



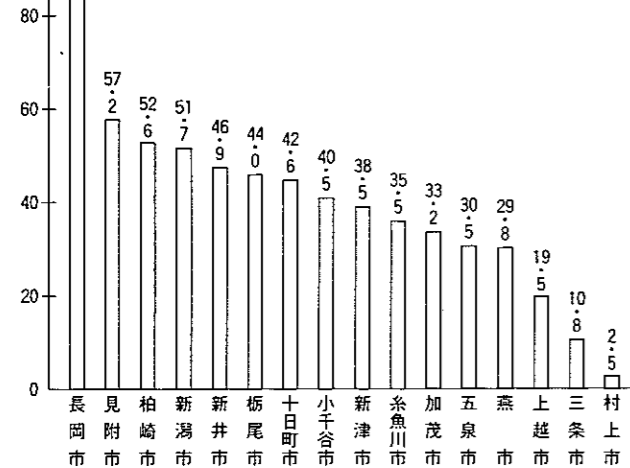
シリーズ・白根市下水道元年

新潟県内の下水道事業 未着手は本市含む9市町村 長岡市は普及率86%

新潟県における下水道事業は、大正13年に長岡市が着手したのが始まりで、昭和50年代にはほとんどの市町村が着手しています。平成9年度では90市町村で公共下水道・流域下水道(注1)事業を実施、54市町村で供用開始しています。下水道の普及率は、長岡市が86.5%、横越町が83.0%、青海町が81.0%など、6市町村が70%を超えています。しかし9年3月の県平均普及率は34%で、全国平均の55%に比べて、まだ低い水準となっています。これは新潟県が農業立県で、尿の農地還元が容易であったこと、昭和30~40年代には公共事業の重点が河川や道

県内20市の下水道普及率

(平成8年度)



・新発田市、豊栄市は平成4年度から事業実施中
・両津市は平成7年度から事業実施中

路の整備に置かれていたこと、昭和30年代後半から続いた断続的な災害の復旧に追われたこと、県民の下水道に対する認識が低く、ほとんどの市町村が昭和50年代以降に着手していることなどが原因と考えられます。県内で流域下水道や公共下水道を実施しているのは90市町村、ここに農業集落排水事業を実施している13市町村を含めると、112市町村中103の市町村が何らかの形で下水道事業に着手しています。着手していないのは白根市を含む9市町村ですが、いずれの市町村も平成12年までの第8次下水道整備5箇年計画(注2)中に着手する予定となっています。白根市の場合、このような状況を踏まえて、早急に整備・普及向上に努めていく必要があります。

注1 流域下水道：2つ以上の市町村区域から排出される汚泥を集めて終末処理場で一括処理するもので、原則として県が事業主体となつて建設し、管理する下水道。

注2 第8次下水道整備5箇年計画：平成8年から12年までの5カ年で全国の下水道普及率を54%から56%まで引き上げる国の長期計画。特に人口5万人未満の市町村の普及率を17%から31%まで引き上げるなど、普及率の向上や未着手市町村の解消を目指す。

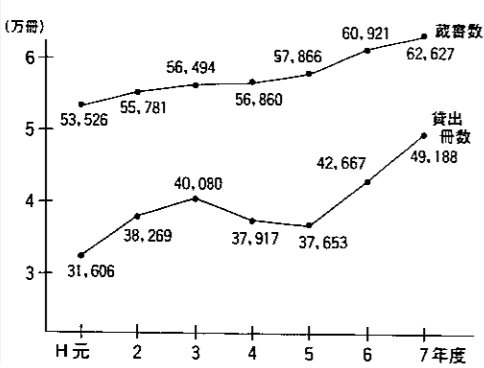
蔵書機能を生かした施設に

連続・見えてきた拠点(仮称)生涯学習センター

教育委員会庁舎の西側に位置する市立図書館。年を追うごとに貸出冊数、蔵書数も増加の一途をたどっています(グラフ)。老朽化しながらも長く市民に親しまれてきたこの図書館は、今年で一年で一億円を超える経済効果を上げています。生涯学習センターが完成することでその効果はもっと高まること予想されます。

経済効果

図書館に詳しい竹内紀吉(元浦安図書館長)は、「白根市の図書館づくりについてのメモ」を残しています。同氏は公共の図書館について「ペビーカーに乗った乳児から杖



生涯学習センターが完成すると、今まで以上に図書スペースは広がり、また複合施設であることから施設の維持管理費、人件費の面でも節約でき、効果が高まることは確実と言えます。小さいころから今の図書館を利用していたという女性は「今の図書館では眠っている本も多いのでは。蔵書数から見れば、機能としては半分以上でしょう」と言います。「図書館は市の顔と言ってもいい。新しい施設は立派なものにしてほしいですね」と生涯学習センターへ期待を込めました。